

土岐・運・来

会報 「土岐・運・来」第四号

発行

自然・馬・人の会

発行日 一九九八年九月二十日

問い合わせ先 〒250-10045

小田原市城山二—三—一—十一

代表 桜井 広利

Tel 0465-32-1308 Fax 0465-32-1332

活動報告!

五月三十一日(日)サドルバツクで乗馬会

て乗馬会

雨天のため中止。なお、一部の方々に連絡
が行き届かず、ご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

六月十四日(日)旧三の丸小跡地駐車場に

参加会員十九人・ボラ十三人・実委十一人
ではなく、馬達の住みかであるサドルバツ
クに集まつた。馬場から相模湾が一望でき、
気分も晴れ晴れとさわやかで、琵琶の実など
も木からもいでご馳走になり、みんなにここに

こ顔だつた。乗馬の事前申込み者が少なかつ
たが、ゆつくり何回も乗ることができた。家

族の飛び入り乗馬もあり「ええ、病みつきに
なりそうです。」とは、速走まで気持ちよく
乗ることが出来た、あるお父さん。

弁当は実委・竹村氏が設営した特大タープ
の下で和氣あいあいと、つまみ食いし合つた。

放牧してある馬達を捕まえる時から、手入
れ、馬具の着脱、馬房へ戻すまで、とボラ・
実委にとつて格好の研修の場ともなり、とて
も楽しく有効な一日を過ごせた。

五月三十一日(日)サドルバツクで乗馬会

晴れ・風少しあり

今日は高橋氏に馬達を連れて来てもらうの

が行き届かず、ご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

七月十二日(日)旧三の丸小跡地で乗馬会

参加会員四十五人・ボラ二十二人・実委七人
暑り、暑さもそれ程でなく快適

小田原市からは、今まで駐車場にしていた
所で開催する様に指示されていたが、市の手

違いで、幸いにも、いつもの場所になつた。

朝市やフリーマーケットと一緒にになり、今後

ボラ四人・実委八人 晴れ

八月二日(日)サドルバツクにて研修会

乗馬会で、いつも乗せる側の立場みになり

やすいボランティア・実行委員が「俺達も乗

れるようになりたーい！」と今日は必死の特

訓（？）。最後にはみかんの木の間を散歩し

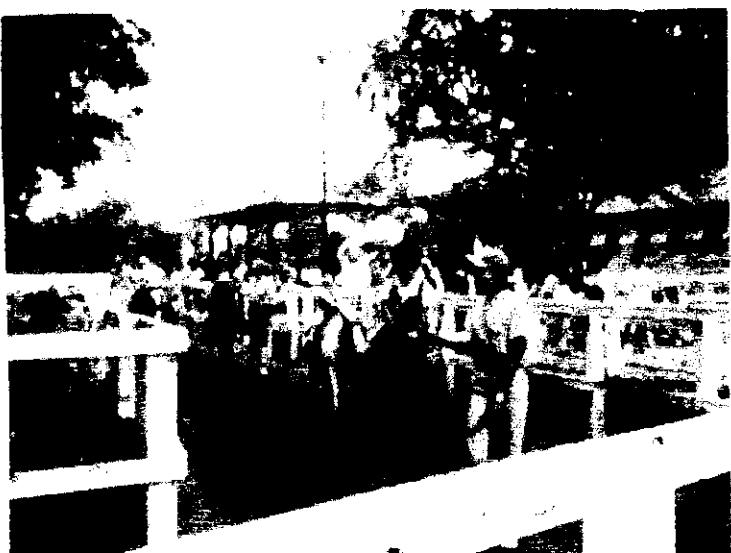
ながら落馬の練習も。大きなやんちゃ馬

に乗つて駆走。馬上で涼しい顔もあれば、熱

くなる人も。馬場の石拾いやつちやおうと
いう計画もあつた気がするが、そんな余裕の
ある者はいなかつた。

“うま”探険 その二

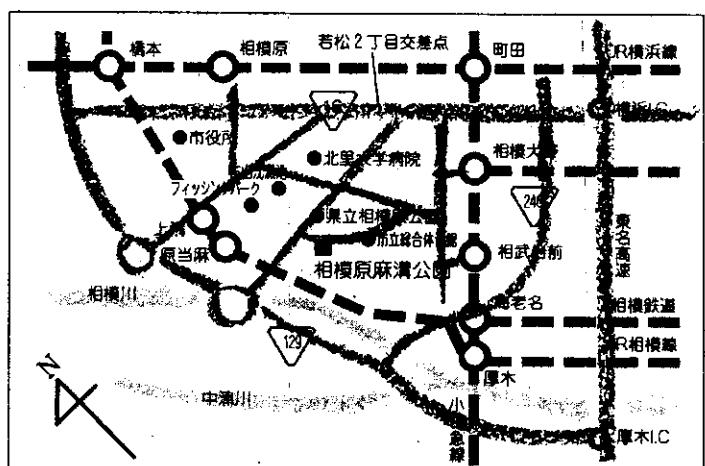
小田原近隣で、この会がある日以外にも馬とふれあう事が出来る所を探して、相模原市立麻溝公園内にあるふれあい動物広場に行つて来た。九月の最初の日曜日、午前中から続々と集まる人、親子、子ども達。始まりの十時にはもう、ポニー引き馬にちびっ子達の列が出来ている。今日は六頭のポニーがスタッフのお姉さんに連れられて、白い牧柵のなかを、楽しみながら、あるいは緊張した面もちの子を乗せてグルツと一週、五〇円。特に休日は来場者が多く、みんなの乗りたい気持ちをかなえたいために、これが精一杯なのだそうだ。
(当日午前中だけで約四〇〇人乗馬) 週に一度十回程度のコースになっている。ポニー教室は小・中学生対象、障害をもつたこどものグループもある。馬小屋には、他に七頭、大きい馬はイベント等がある時に馬車を引く。



タツフと仲良く楽しそう。この二つのプログラムは市民のみに公募されているが、抽選しなければならない程の人気だ。

相模原市の人口約六十万人。聞けば納得の、日曜日に緑を、動物とのふれあいに心の安らぎを求めてやって来る人々の多さ。都会化しつつある街の市民が持つ危機感のようなものまで感じてしまった田舎者の私は、大きかもしれない。が、私たちの小田原で、お城のそばでのんびり馬に乗る事が出来るありがたさを初めて知った。

そして、広場の責任者の菊池さんに、市民の公園作り、夢を実現するノウハウ等のお話を伺うことができた。小田原らしい、自然と馬と人の計画とは、どんな風なのが考えたくなるワクワクする気持ちで探険から帰ってきた。



相模原麻溝公園内ふれあい動物広場

相模原市麻溝台 二三一七の一

年間いつでも参加できる) 体験でき、若いス

電話 0427 / 78 / 3900

ゴリラのつぶやき

9月20日の当日受付のひき馬で働いている馬は『つくし』という名前である。先日この馬がかわっていた紅葉台木曾馬牧場にいってきました。この牧場から今いる江の浦でサドルバッカを経営している高橋さんとのところへやつてきたのである。『つくし』は木曾馬の流れを受け継いでいる。木曾馬というのは日本に残っている数少ない在来種のひとつである。この牧場は名前からも分かるように木曾馬を積極的に使おうとしているところである。そして今ここでは日本の古馬術を復活しようとしている。といつても堅苦しく考える必要はなく、馬を楽しむひとつ選択肢として古馬術を取り入れているのである。

牧場の周りには街灯というものがない。夜になると真っ暗になる。輝いているものは頭上の星ばかりである。その数の多いこと小田原の空とは比べ物にならない。9月半ばと/or>うのに日が落ちるとかなり冷えてくる。寝るときに、布団を掛けなければ風邪をひいてしまう。ちなみに私は布団をかけ、厚手の毛布2枚のあいだに寝た。それでも布団を蹴飛ばすことなく朝を迎えた。さすがに標高千メートルの所である。今年冬には120セ

ンチの雪が積もつたそうである。この牧場には25頭くらいの馬がいる。3月に生まれた『つくし』の子もいる。精悍な顔つきの栗毛の子馬である。一緒に行つた人が「できるものなら自分でも飼つみたいくらい」と言つていた。この子馬は人が触つても嫌がらない。

馬には生まれながらにして人を嫌がる遺伝を持つたものと人になつく遺伝を持つたものがいるそうである。『つくし』の子は人になつく系統でありこういう馬ならば障害のある人や初心者が乗るのに安心ということだ。しかし生まれながらにして人間を好きかどうか決まつているというのはかなりショッキングなことだ。

編集 後記

「馬にさわつてみたらどんなだつたか」「乗つてみたら……」「また来てみたら……」会員の方々の声がほしい、絵もほしいです。この会報を皆さんのがらにして人間を好きかどうか決まつて十二月発行予定です。
(ま)

ヤガヤガ
笠懸：馬上から的の代りに下げた
笠を射する弓矢

小田原北条流
笠懸?...とか
いうのがでました
いいなあ、もし3ト
たうらなあ...
...つぶやきました



協賛者（一九九八年三月三十一日）
十八日）吾妻サク様、三坂信裕様

「これからのお走り

♪十月三日（土）十四時半より桜井塾にて

第二十一回実行委員会

十月乗馬会準備・ゆめ国体参加方法の検討

その他

♪十月十一日（日）九時半～十五時半

旧三の丸小跡地にて・乗馬会・尚、朝市の
会と同時開催

♪十一月八日（日）九時半～十四時頃・県立
保土ヶ谷公園にて

ゆめ国体イベントふれあい広場に参加「僕
の背中に乗らないかい!」

今の所、当日受付の引き馬のみの予定

パンフレット参照

♪十二月十三日（日）九時半～十五時半

旧三の丸小跡地にて・乗馬会

朝市の会と同時開催。

申込み・問い合わせは、発行元まで。電
話かFAX・手紙でお願い致します。お近
くに実行委員がいる場合は、直接申し込ま
れてもかまいません。

会費について

会費は通信費、事務費、用具の購入等に

ボランティア募集
一緒に活動してくれる仲間を募集してい
ます。ボランティアをしてみたい。小田原で
馬に乗ってみたい。自然が好き。いろんな人
とめぐり逢いたい。そんな方々、少しでも「楽
しそうだな」と思つたら、さうそく連絡く
ださい。次の二つの種類があります。

①実行委員

主として、月一回程度土・日に会合して
会の運営に当たります。年会費二千四百
円。

②乗馬会当日ボランティア

乗馬会のみ参加。バザーや乗馬でのお
手伝いです。乗馬についての研修はし
ます。参加費は無料です。

どちらも高校生以上。実行委員もボラン

ティアも障害のあるなしは問いません。お
時間の許す範囲でのご参加をお待ちして
います。

申込み・問い合わせは、発行元まで。電
話かFAX・手紙でお願い致します。お近
くに実行委員がいる場合は、直接申し込ま
れてもかまいません。

使われます。九十八年度は中途入会者は月
計算で減額します。会計年度は四月から三
月までとします。

会費・協賛金のお払い込みのお願い

小田原で自然と人とがふれあい、乗馬の
馬が実現できるように、今後ともご協力を
お願い致します。

会費 年会費 二千四百円（郵便振替）

保険料 中学生まで四百五十円

右記以外 千四百円

協賛金 一口千円（現金書留または郵便
振替）

振込先 00270・4・79944

自然・人・馬の会 桜井 広利

Tel 0465・32・1308

Fax 0465・32・1332

